

事業コード	H23-建-新-03		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2485
路線名等	一般県道 あきた北空港西線		担当課長名	柴田 明
箇所名	北秋田市小ヶ田		担当者名	主幹兼班長 佐藤 秀治
総合計画との関連	政策コード	17	政策名	新たな生活圏の創造
	施策コード	04	施策名	地域内交通の整備
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県道の整備推進

1. 事業の概要

事業期間	H24 ~ H29 (6年)		総事業費	55.0億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	○延長L=3,610m 幅員W=7.0(12.0)m (2.5-3.5-3.5-2.5)						
事業の立案に至る背景	○本路線は、大館能代空港にアクセスする道路で、国道7号と国道105号を短絡する道路としても利用される重要な路線である。 また、日沿道「ニッ井白神～あきた北空港間」における「現道活用案」の一部をなしており、隣接する「鷹巣大館道路」の供用時期に合わせ事業を実施することにより、当該区間で高速道路の機能に近い速達性、定時性を確保するとともに、高速道路との連続性が図られることから新規事業として要望するものである。						
事業目的	○現道活用案の先行整備による高速道路の機能に近い速達性、定時性の確保 (日本海沿岸東北自動車道) ○線形不良区間の解消(小ヶ田踏切部の屈曲) ○交差点部の立体化 ○空港へのアクセス性の向上(大館能代空港)						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		全 体	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度以降	
	事業費	5,500,000	100,000	1,200,000	1,200,000	3,000,000	
	経費内訳	工事費		770,000	1,140,000	2,940,000	
		用補費	500,000	400,000	50,000	50,000	
		その他	150,000	100,000	30,000	10,000	
	財源内訳	国庫補助	3,850,000	70,000	840,000	840,000	2,100,000
		県債	1,485,000	21,000	324,000	324,000	816,000
		その他					
	一般財源	165,000	9,000	36,000	36,000	84,000	
	事業内容		道路詳細設計、構造物等詳細設計、各種調査	道路土工、函渠工、用地補償	道路土工、函渠工、橋梁工、用地補償	道路土工、函渠工、橋梁工、用地補償	
調査経緯	○H22道路予備設計						
上位計画での位置付け	○ふるさと秋田元気創造プランの「社会資本整備」を推進する事業						
関連プロジェクト等	○日本海沿岸東北自動車道「鷹巣大館道路」(平成20年代後半供用予定)						
事業を取り巻く情勢の変化	○鷹巣大館道路の供用開始(平成20年代後半以降供用予定) ○伊勢堂岱遺跡が世界文化遺産の国内候補地となる「世界遺産暫定リスト」に登録(H20.12.15)						
事業効率把握の手法	指標名	県道改良率					
	指標式	改良済延長/路線実延長					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	70%		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	71%					
達成率 b/a	101%		把握の時期	平成23年 4月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○物流の効率化や交流の促進を図るとともに災害時の防災ネットワークの確立を達成するためには、早期に高速ネットワークを完成させる必要である。 ○現道活用案による先行整備により、高速道路の機能に近い速達性、定時性が確保できる。	15 点
緊 急 性	○平成28年度以降に予定されている鷹巣大館道路(日沿道)あきた北空港IC供用の整備効果をより高めるためには、同時期に当工区を供用させる必要がある。	20 点
有 効 性	○第一次緊急輸送道路であり、災害時の物資輸送の緊急道路として重要性は高い。 ○北秋田二次医療圏の核となる北秋田市民病院へのアクセス道路としての活用も見込まれる。	15 点
効 率 性	○事業の費用便益は2.3であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 63億円 ・総便益の現在価値 143億円 ○計画交通量は10,800台/日となっている。	20 点
熟 度	○高速道路の機能に近い速達性、定時性を確保するため、地元(大館市、北秋田市、能代市)から、現道活用案による早期の道路整備について要望がある。	10 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	80 点
	○ランクIであり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 当事業は、日沿道のミッシングリンクである「二ツ井白神～あきた北空港」間において、現道の立体交差化等により、高速道路の機能に近い速達性、定時性を確保するものであり、県の重点施策であるネットワークの早期形成に大きく寄与するものであることから、事業の優先度は非常に高い。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
平成20年代後半に東北自動車道からあきた北空港ICまで日沿道が直結する予定であるが、当該区間は秋田内陸縦貫鉄道との平面交差踏切や急カーブもあり、高速ネットワークの形成や安全確保の観点から大きな支障となることが予想される。 以上から、必要性及び緊急性は高く、事業実施という1次評価は妥当と判断される。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
日沿道「二ツ井白神～あきた北空港間」について、現在抱えているミッシングリンクを早期に解消するため、現道を可能な限り活用し、交差点部分を立体化することで、高速道路の機能に近い速達性、定時性を確保する計画であり、妥当である。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H23-建-新-03)

適用基準名 道路改築事業 (地域間交流・連携促進)

箇所名 (北秋田市小ヶ田)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	17	12	2次改築事業については該当しない	
	・車道幅員<5.5m	2箇所	12			
	・最小半径<100m	1箇所	7			
	・最急勾配>5%					
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0			
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	18	3	2次改築は配点36点 2次改築は配点28点 2次改築は配点20点 2次改築は配点12点 2次改築は配点6点	
	・現道の混雑度≥1.0	4件該当	14			
	・現道の旅行速度≤30km/h	3件該当	10			
	・現道の事故率≥50件	2件該当	6			
・通学路指定で歩道なし	1件該当	3				
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0				
計			35	15		
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無	県の主要プロジェクト等に該当	5	5		
	・県の主要プロジェクト	地域振興プロジェクトに該当	3			
	・地域振興プロジェクト					
	・ほ場整備等の他事業	該当なし	0			
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5		
特有の課題の有無	位置づけなし	0				
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	あり	10	10			
	なし	0				
計			20	20		
有効性	道路の位置づけ					
	緊急輸送路	第1次輸送路	8	8		
		第2次輸送路	7			
		第3次輸送路	6			
		指定なし	0			
救急医療施設へのアクセス	直接アクセスする	7	7			
	間接的に補完する	5				
	アクセスへの貢献は小さい	1				
計			15	15		
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比 (B/C)	1.0以上	10	10		
		1.0未満	0			
	計画交通量	5,000台/日以上	10	10		
	1,000台/日以上~5,000台/未満	5				
	1,000台/日未満	0				
計			20	20		
熟度	地元の状況					
	地元ニーズ	文書要望あり	4	4		
		口頭要望あり	2			
		要望なし	0			
	地元の協力体制	地元の内諾	3	3		
		用地反対	0			
地元への方針説明	あり	3	3			
	なし	0				
計			10	10		
合計			100	80		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		